

中国空軍専門家徐勇凌氏が”6・3”早期警戒機事故を語る：「気象を軽視してはならない」

2014 年 02 月 13 日 10:25 ソース：人民網—軍事チャンネル

阿部信行

(訳者コメント)

2006 年 6 月に中国安徽省で中国の Y-8 型輸送機を改装した早期警戒機 KJ-200 が墜落し、中国は同乗していた多くの科学者を失いました。

この事故は、発生した当時、全く報道されませんでした。断片的には悲惨な事故があったらしいとの情報はありました。今回人民網に事故発生の実態と原因に関する記事が掲載されましたので紹介します。

事故発生から 7 年以上も経っています。記事の中でコメントしている専門家は、中国のテストパイロットです。たしかロシアのテストパイロットコースをでている人と思います。

人民網北京 2 月 13 日電 (張潔嫻)

2014 年 2 月 11 日、アルジェリア空軍の C-130 型輸送機 1 機が同国内で墜落し、現在 77 名の死亡が確認されている。軍用輸送機及びその改修型の特殊機は積載量が大きく、搭乗員の数が多いため、航空事故が発生すると人員損失及び経済損失が大きくなる。2013 年 6 月 3 日 (注：2006 年のはず) 中国空軍の Y-8 型 AEW 改装機 KJ-200 型機が機体の着氷が原因で、安徽省東部地区に墜落し、同機のクルー 5 名のほか空軍の専門家 35 名が全員死亡した。この事故は、人民解放軍建軍史上最悪の航空事故と言われている。同年 9 月 7 日、新華社は航空事故調査結果を発表した。事故の直接原因は、事故機が着氷区域を何度も通過したことによって機体に着氷し操縦不能となって墜落したと認定した。国際的な資格を有し空軍の試験飛行の専門家でもある徐勇凌氏は、人民網の取材を受けた際にこの事故について次のように語った。

気象条件は人間がコントロール出来ないことを、パイロットは肝に銘じなければならない。どんな小さな気象障害であっても最も先進的な輸送機を瞬時に墜落させ人を死亡させる可能性がある。

現在、軍用機であろうと民間機であろうと高度な技術が確立され、輸送機器は安全性、効率性、快適性が高められた。しかし一面では、航空機は機械であり、人間が操縦し、大気中を飛行するのである。しかもこの三つの要素を 100%安全にすることは不可能である。

“例えば技術である。貴方が如何に完全を期したところで欠陥があるかも知れ

ず、また故障率もある。例えば人員である。一パイロットが訓練を完全に行い、反復訓練したところで、錯誤が発生する可能性がある。例えば大気環境である。真に複雑であり、各種気象条件が発生する可能性がある。事故発生の確率もまた存在する。

06 年（注：ここでは 06 年になっている）の“6・3”航空事故、すなわち気象環境が引起した航空事故に対して、徐勇凌氏は一つの誤りを指摘した。すなわち“航空機が先進的になればどんな天気でも飛べる、と多くの人々は言うが、そういうことは絶対にない”と。

また彼は、着氷、あられ、大気の乱流、クリア・エア・タービュレンス等の大気環境は、先進的な輸送機器であっても瞬時に危機に陥れる。例えば、クリア・エア・タービュレンスは、民間機を高度 1 万メートルから高度 4000 メートルまで瞬時に引き落とす、と述べた。

彼は、“この事故は我々に警告した。パイロットにとって気象に関心を持つことは極めて重要だ”と述べた。気象条件は人間がコントロールできないことを、パイロットは肝に銘ずべきである。気象に対する関心を一時も緩めてはならない。なぜならば、どんな小さな気象障害であっても最も先進的な輸送機器を瞬時に墜落させ人を死亡させる可能性がある。我々は、小心翼翼であらねばならず。飛行を担当する人は、飛行に当たり何事にも細心の注意を払う精神が無ければ、問題発生の確率は高くなる。

以上